

# 第1回 兵庫県立神出学園・兵庫県立山の学校の 機能充実に向けたあり方検討委員会 資料

## 「施設の現状・課題について」

令和7年9月5日  
兵庫県県民生活部男女青少年課

# 目 次

I	委員会設置の趣旨	
1	委員会の目的・・・・・・・・・・	4
2	委員会の進め方・・・・・・・・・・	5
II	施設の現状と実績	
1	設置経緯・・・・・・・・・・	7
2	設置目的等・・・・・・・・・・	8
3	神出学園の現状と実績・・・・・・・・	9
4	山の学校の現状と実績・・・・・・・・	18
5	入学者数の推移・・・・・・・・・・	27
III	課題と論点	
1	課題・・・・・・・・・・	29
2	論点・・・・・・・・・・	40

# I 委員会設置の趣旨

# 1 委員会の目的

兵庫県立神出学園・兵庫県立山の学校は、高校中退者や無職青少年等の増加を踏まえ、課題を抱える青少年を支援するため、平成5年1月（山の学校）、平成6年10月（神出学園）に、他県に例のない本県独自の施設として開設しました。

両施設では、様々な体験プログラムや、寮での共同生活を通して、自分を見つめ直し、生き方を発見できるよう支援することにより、多数の青少年を進学や就職などの進路へとつなげてきました。

設置後30年が経過し、これまでの成果に加え、この間の不登校・ひきこもりの増加や教育環境の充実、ニーズの多様化等の変化や課題も踏まえながら、今後の両施設のあり方を検討することとして、今般、有識者を含む「兵庫県立神出学園・兵庫県立山の学校の機能充実に向けたあり方検討委員会」を設置することとしました。

## 2 委員会の進め方

### (1) 委員

(敬称略)

区 分	氏 名	職 名 等
学 識 経 験 者	新 井 肇	関西外国語大学外国語学部教授
	秋 光 恵 子	兵庫教育大学理事・副学長
青 少 年 支 援	西 田 勉	公益財団法人神戸YMCA常勤理事
	前 阪 一 彰	公益財団法人兵庫県青少年本部業務執行理事（指定管理者）
経 営	中 尾 志 都	公認会計士
対 象 施 設	吉 田 利 徳	兵庫県立神出学園校長
	三 谷 治	兵庫県立山の学校校長
県 及 び 県 教 委	喜 多 和 美	兵庫県県民生活部次長
	辻 登志雄	兵庫県教育委員会事務局高校教育課学校支援推進官兼義務教育課学校支援推進官

### (2) スケジュール

4～6月			7～9月			10～12月			1～3月		
		委員会 設置			第1回 委員会		第2回 委員会		第3回 委員会		第4回 委員会

※必要に応じR8年度に委員会を継続

## Ⅱ 施設の現状と実績

# 1 設置経緯

## (1) 青少年を巡る社会的背景（昭和60年代後期）

学校・地域・家庭の変化により、基本的な生活習慣や社会的規範・連帯感・協調性が身につかず、学校や職場に溶け込めない結果、学校や職場から離れ、無為な生活を送ることを余儀なくされている「高校中退者」「無職青少年」が増加、社会問題化していた。

## (2) 本県における無職青少年等への対応

昭和63年に「高校中退者・無職青少年の受け皿」として、学校教育法による高等学校には該当しない教育施設の設置を検討。

- ・山の学校構想 → 平成5年1月開設
- ・ひょうご自立実践学園構想 → 神出学園として平成6年10月開設

※全国唯一の公立フリースクール

## 2 設置目的等

### (1) 条例に定める目的

#### 【兵庫県立神出学園の設置及び管理に関する条例 第1条】

ゆとりと潤いのある共同生活の中で、自然、人及び社会とのふれあいを通じて自己に対する理解を深め、自らの進路を見いだすことができるよう支援することにより、こころ豊かな青少年の育成を図るため、兵庫県立神出学園を置く。

#### 【兵庫県立山の学校の設置及び管理に関する条例 第1条】

豊かな自然環境の下で、人及び地域とふれあう体験や共同生活を通じて、健やかな心身及び豊かな人間関係を育みながら、自らの進路を見いだすことができるよう支援することにより、こころ豊かな青少年の育成を図るため、兵庫県立山の学校を置く。

### (2) 施設の強み

- ・専門職配置による支援体制：心理カウンセラー（神出）、教務スタッフ等
- ・全寮制による共同生活：生活リズムや家族関係改善・対人関係能力伸長等の効果
- ・多彩な体験プログラム：農業体験、動物とのふれあい、ミュージック等（神出）  
森林学習・実習、ものづくり、就労体験等（山の学校）



### 3 神出学園の現状と実績

#### (1) 施設概要

設 立	平成6年10月
設 置 場 所	神戸市西区神出町小束野30番地
対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内在住・義務教育修了の23歳未満の男女</li> <li>・悩みを抱えながらも生き方や進路を見つけたいという意欲をもつ者</li> <li>・体験学習や寮での共同生活のできる者</li> </ul>
入 学 時 期	4月（9月まで追加募集することもある）
募 集 人 員	年間約30名
在 籍 期 間 等	2年以内（1年延長可）
通 学 日	月～木曜日（3泊4日） ※週末は帰宅
授 業 料 等	授業料なし 入学料62千円（傷害保険料、保護者会費等） 月諸経費36千円（給食費、光熱水費、寮等運営経費、 教材費、体験活動積立費等）
運 営	公益財団法人兵庫県青少年本部（指定管理）

## (2) 支援内容

### ア プログラム（令和7年度）

区 分	プ ロ グ ラ ム
命とふれあう活動	農園創造（農業体験）、動物飼育、ガーデニング、エコ環境（環境学習）
自立した生活につながる活動	野外制作（木工等）、就労体験、食べ物工房、食育、ハンドクラフト（アクセサリーづくり、編み物等）、情報デジタルアート
スポーツ・身体表現活動	チャレンジスポーツ（新しいスポーツへの挑戦）、レクリエーションスポーツ、チャレンジプロジェクト（研究・問題解決）
芸術文化活動	芸術鑑賞、書道アート、華道、茶道、美術工芸（陶芸・絵画等）、ミュージック（楽器演奏・合唱等）
進路・学習指導	チャレンジ未来体験（事業所・大学等見学）、進路学習（修了後の目標設定とそれに向けた学習計画の作成）、探究・読書
ふれあい活動	ふれあい体験（自然・文化施設訪問）、ボランティア実践、こどもと文化（保育所等訪問）
コミュニケーション能力向上	グループワーク

### イ 学園行事

入学の集い、宿泊体験旅行、夏祭り、学園祭、修了の集い 等

## ウ 通信制高校との連携

### 4校と単位連携

- ・ 県立青雲高校、県立網干高校、クラーク記念国際高校（最大20単位）
- ・ AIE国際高校（最大36単位）

## エ 寮生活

### 4人部屋18室（男子寮11室、女子寮7室）

#### 【寮生活のスケジュール】

7:00	起床	17:45	夕食
8:00	朝食	19:00	自由時間
9:20	プログラム・昼食	21:00	帰寮
16:00	自由時間	23:00	就寝

## オ 個別相談、カウンセリング

- ・ 教務スタッフによる生活・進路相談
- ・ 心理スタッフによる定期的なカウンセリング
- ・ 看護師による保健相談

## カ フォローアップ

修了後1年間、進路先への定着や家庭生活への適応に向けた支援を実施

## キ 施設・設備

・総敷地面積 56,507.55㎡（県有地）

・建物

本館、食堂棟、男子・女子寮、  
体育館、車庫棟、作業舎、馬小屋、  
倉庫兼蹄洗場、屋外便所

・主な設備等

農園、ビニールハウス、  
工作機械（電動ドリル、チェーン  
ソー、糸のこ盤等、電気ろくろ）、  
スポーツ用具（バスケットゴール、  
バドミントン支柱、ビリヤード台等）、  
音楽用具（ギター、ドラムセット、  
トランペット、アンプ等）、  
事務用具、調理・洗濯用具 等

※馬、羊(2頭)、兎(7羽)、犬を飼育



## ク その他の取組

### (ア) 一日自由体験

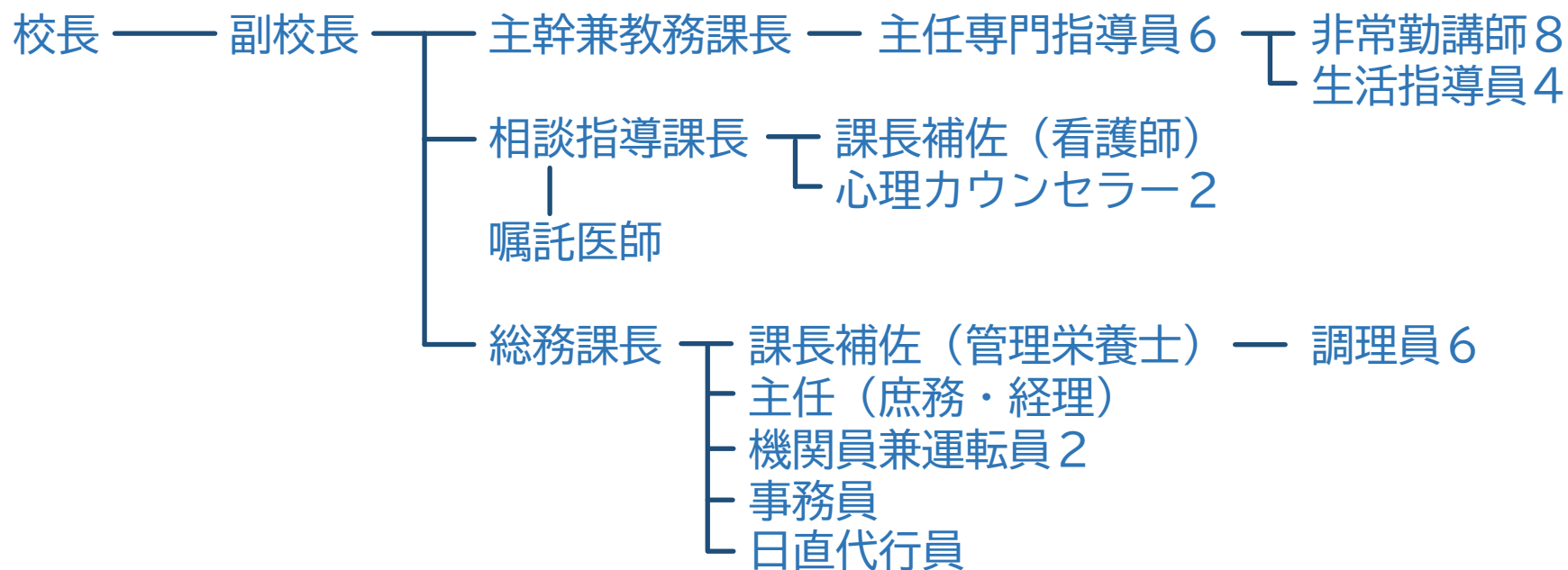
中学生から概ね40歳までの不登校・ひきこもり等の状態にある者を対象に、神出学園において体験活動を実施（年間2回は小中学生を対象に実施）

### (イ) アウトリーチ事業

要請に基づき学校等へ職員を派遣し、不登校対策に関する知識や対応方法に係る研修や情報提供を実施

### (3) 職員体制

正規職員14名（県派遣7名・県教委派遣7名）、非常勤嘱託17名、非常勤講師8名



### (4) 在籍者の状況（令和7年4月時点：34名在籍）

## (5) これまでの入学者の状況（令和7年4月時点）

### ア 応募・入学状況

合 計	応募者数			入学者数		
	男子	女子	計	男子	女子	計
	851	506	1,357	573	377	950

### イ 学園生の入学前学歴

	人数	割合(%)
中学校卒	431	45.4
全日制高校	325	34.2
定時制高校	21	2.2
通信制高校	141	14.9
特別支援学校	9	0.9
大学・専門学校	21	2.2
その他	2	0.2
計	950	100.0

### ウ 修了生の進路状況

	人数	割合 (%)
大学・短大	108	13.0
専門学校等	49	6.0
全日制高校	19	2.3
通信制高校	305	36.7
定時制高校	61	7.3
特別支援学校	12	1.4
各種学校等	33	4.0
就職・アルバイト	97	11.7
福祉就労	21	2.5
その他	127	15.1
合 計	832	100.0

## (6) アンケート

### ① 令和7年度実施（毎年実施）

#### ア 調査概要

- ・ 令和6年度修了生11人、在籍学園生14人とその保護者を対象に実施
- ・ 回答数：学園生18人（修了生7人、在園生11人） 保護者14人

#### イ 調査結果

- ・ 学園生活で良かった点
  - 学園生 いろいろな体験ができた：17 友達ができた：15
  - 保護者 いろいろな体験ができた：15 友達ができた：9
- ・ 学園生活を通して変化があったか
  - 学園生 かなり変わった：8 少し変わった：8  
あまり変わっていない：2 全く変わっていない：1
  - 保護者 かなり変わった：7 少し変わった：8  
あまり変わっていない：1 全く変わっていない：0
- ・ どのような点が変わったか
  - 学園生 集団行動におけるルールや規則が守れるようになった：9  
人と話すようになった：8 問題点や課題を見つけられた：8
  - 保護者 身の回りのことができるようになった：8 人と話すようになった：6
- ・ 学園生活の中で役に立ったもの
  - 学園生 仲間とのふれあい：15 プログラム：13 寮での集団生活：13  
スタッフとのコミュニケーション：12
  - 保護者 仲間とのふれあい：15 寮での集団生活：15 プログラム：14  
カウンセリング：13



## ② 令和4年度実施（創立30年の節目を機に実施）

### ア 調査概要

- ・ 学園修了後の生活（過去10年間の修了生282人中、回答67人）

### イ 調査結果

#### 【学園修了後の生活】

（単位：％）

	学園入学前		修了直後		現 在	
生活の中心 となっているもの	学生	43	学生	57	学生	45
	特に何もしていない	24	未回答	21	働いている	37
	未回答	21	働いている	7	就職や進学準備	9
外出状況に いちばん近いもの	自室からは出るが家からは出ない	19	学校や仕事で毎日外出	34	学校や仕事で毎日外出	57
	未回答	19	未回答	21	学校や仕事で週に3～4日外出	22
	自分の趣味に関する用事のときだけ外出	16	学校や仕事で週に3～4日外出	16	近所のコンビニなどには出かける	9

※得られた回答のうち、上位3項目を記載

## 4 山の学校の現状と実績

### (1) 施設概要

設	立	平成5年1月
設	置	場所
対	象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内在住・義務教育修了の24歳未満の男子</li> <li>・さまざまな体験活動を通して自分の生き方を見つけ、たくましく生きる力を 培いたいと考えている者</li> <li>・体験活動や寮での共同生活のできる者</li> </ul>
入	学	時期
募	集	人員
在	籍	期間等
通	学	日
授	業	料等
運	営	

- ・県内在住・義務教育修了の24歳未満の男子
- ・さまざまな体験活動を通して自分の生き方を見つけ、たくましく生きる力を  
培いたいと考えている者
- ・体験活動や寮での共同生活のできる者

授業料なし 入学料6万円（傷害保険料、実習服・安全靴等）  
月諸経費4万円（寮生活費、教材費、資格取得費、研修旅費等）

## (2) 支援内容

### ア プログラム（令和7年度）

区 分	プ ロ グ ラ ム
自然と共に生きる森の学習	森林学習・造園学習（刈り払い機・チェーンソー取扱い実技含む）、森林実習・造園実習（校内・校外施設での剪定・伐木作業、里山保全実習等）
心を揺り動かす体験活動	ものづくり体験（木工、園芸実習）、野外活動（登山、サイクリング等）
生き方を考えるキャリア教育	キャリア教育（消費者教育、年金講座等、資格取得、職場体験）
仲間と共に生きる・社会の中で生きる	学級活動（朝の学習、清掃等）、地域交流活動（清掃活動、地域のお祭り等への参加、近隣小中学校との交流活動等）
心豊かに生きる	一般教養（生活安全、防災、食育、人権・福祉等の学習）、文化体験（絵画、陶芸、書道、工芸）、スポーツ（ゴルフ、レクスポーツ）

### イ 学校行事

入学式、研修旅行、登山、海辺の活動、講演会、クリスマス会、修了式 等

## ウ 通信制高校との連携

### 3校と単位連携

県立青雲高校、県立網干高校、クラーク記念国際高校（最大20単位）

※クラーク記念国際高校は、山の学校でスクーリング実施（月1回程度）

## エ 寮生活

### 4人部屋5室

#### 【寮生活のスケジュール】

7:00	起床	18:00	夕食
8:00	朝食	18:30	入浴
9:00	プログラム・昼食	21:00	ミーティング
16:00	課外活動・自由時間	23:00	就寝

※スマホ等使用時間：16:00～22:00

## 才 施設・設備

- ・敷地 兵庫県立農林水産技術総合センター敷地（県有地）

- ・建物

本館、五十波寮、体育館、車庫、  
車庫作業舎

- ・主な設備等

林業体験用具（チェーンソー、  
刈払い機、芝刈機、椎茸ドリル等）、  
工作機械（電動丸のこ、ドライバー  
ドリル、電動ろくろ、ルーター等）、  
スポーツ用具（卓球台、体操マット、  
テント、バドミントン支柱等）、  
事務用具、調理・洗濯用具 等



## カ その他の取組

### (ア) チャレンジ体験

進路選択や社会的自立を考える機会を提供。概ね39歳までの県内在住の男女を対象に、山の学校において本科生のカリキュラムに準じた体験を実施  
(1日～希望に応じて複数日)

### (イ) 体験入学会

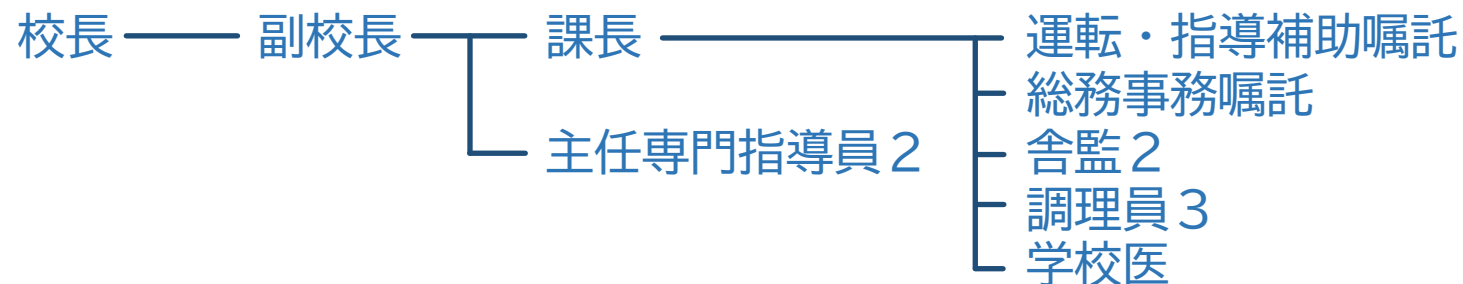
入学希望の青少年や保護者を対象に、学校紹介・活動体験等を実施  
(年2回程度開催)

### (ウ) トライやる

不登校等の課題を抱える中学生（山の学校に通所可能な者）を対象に、本科生のカリキュラムに準じた体験を実施（日帰り）

### (3) 職員体制

正規職員 5 名（県教委派遣 4 名、県教委OB 1 名）、非常勤嘱託 8 名



### (4) 在籍者の状況（令和7年4月時点：3名在籍）

## (5) これまでの入学者の状況

### ア 入学前学歴

	人数	割合(%)
中学校卒	324	70.4
高等学校卒	136	29.6
計	460	100.0

### イ 修了生の進路状況

	人数	割合 (%)	進路例
大学・短大	13	3.4	
専修学校・各種学校	19	5.0	
県立森林大学校	4	1.0	
高等学校	101	26.4	通信制含む
予備校	4	1.0	
就職（森林造園関係）	99	25.9	森林組合、企業（造園緑化、 林業製材関係等）
就職（上記以外）	105	27.4	一般企業、公務員等
その他	38	9.9	
合 計	383	100.0	



## (6) アンケート

### ① 令和6年度実施

#### ア 概要

- ・第32期生（令和6年度在籍）9名の保護者を対象に実施（年3回（7、12、2月））

#### イ 調査結果（令和7年2月実施分（保護者8名から回答））

- ・入学時より成長できたか  
とても成長した：6　まあ成長した：2
- ・どのように変わったか（複数回答制、主な回答を掲載）  
学習や進学への関心が高まった：5　家族との会話が増えた：5  
規則正しい生活をするようになった：5　笑顔が出るようになった：5
- ・山の学校に入学させてよかったか  
とても良かった：7　まあ良かった：1
- ・「森林・林業に関する活動」は、成長に役立っているか  
役立っている：7　どちらかといえば役立っている：1
- ・「上記以外の活動（職場体験、研修旅行、木工作・販売）」は、成長に役立っているか  
役立っている：7　どちらかといえば役立っている：1
- ・「寮生活」は、成長に役立っているか  
役立っている：7　どちらかといえば役立っている：1
- ・今後、どのような力をつけさせたいか（複数回答制、主な回答を掲載）  
自立して社会を生き抜く力：8　自分で判断し行動する力：3  
社会のルールを守る力：3

## ② 平成30年度実施

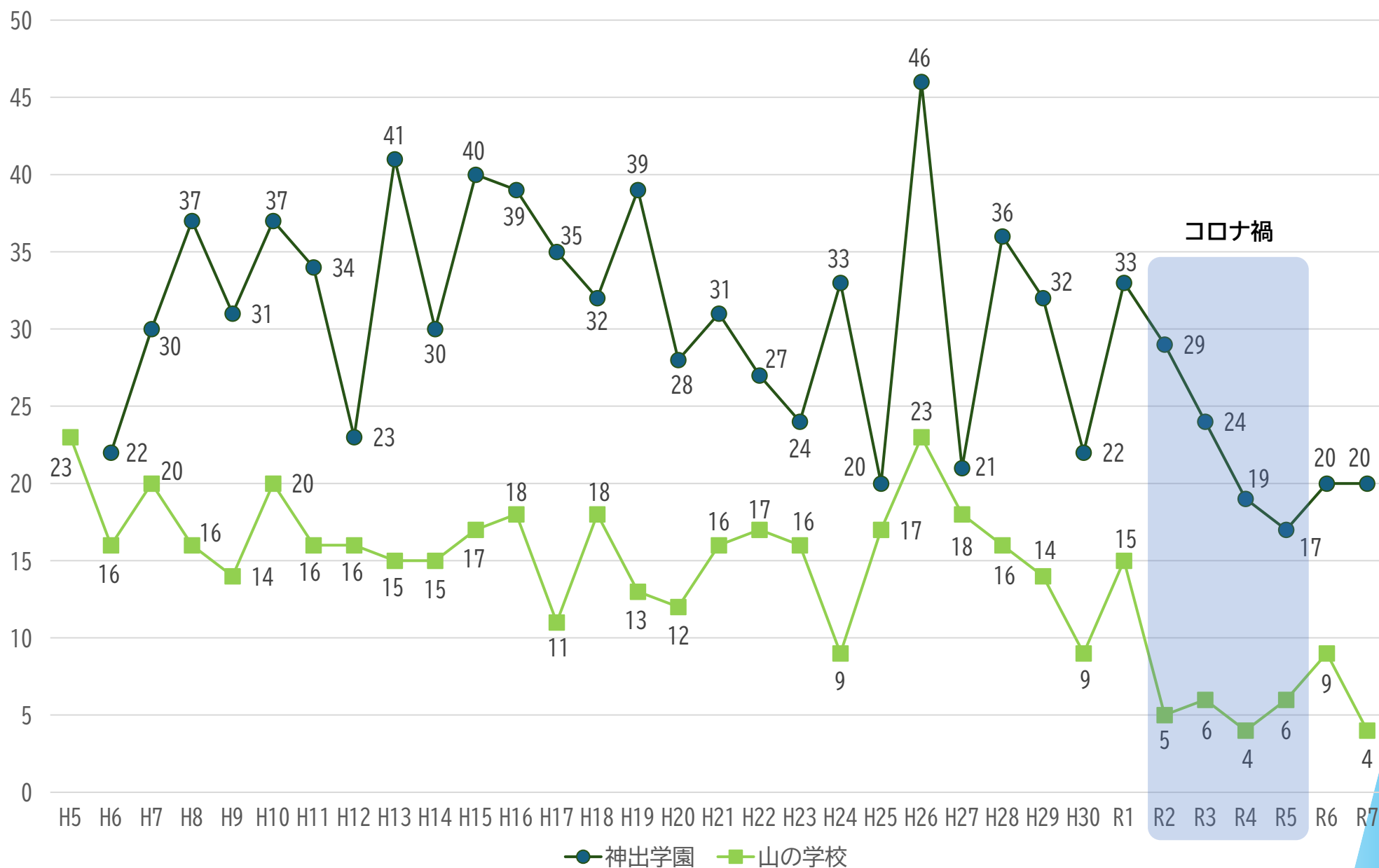
### ア 概要

- ・ 第26期生（平成30年度在籍） 7名の修了生を対象に修了直前に実施

### イ 調査結果

- ・ 山の学校をどこで知って入学したか  
学校の先生：4 家族：1 関係機関：1 児童養護施設：1
- ・ 入学時、どのような状況であったか（複数回答制、主な回答を掲載）  
生活のリズムが崩れていた：4 勉強が好きでなかった：2  
学校に馴染めなかった・居場所がなかった：2
- ・ 山の学校に入学した目的（複数回答制、主な回答を掲載）  
規則正しい生活習慣を身につける：4 寮で共同生活をする：3  
山や森、自然と触れ合う：2 自然の中で体験活動を行う：2  
身体を動かし体力をつける：2 チェーンソーやフォークリフトの資格を取得する：2  
通信制制高校の単位連携制度を利用し高校卒業資格を取得する：2
- ・ 山の学校の体験を通して自分が変わったと感じたこと（複数回答制、主な回答を掲載）  
コミュニケーション能力の向上：6 自分に自信・将来への希望：5
- ・ 山の学校での体験で自分自身の成長に役立ったこと（複数回答制、主な回答を掲載）  
寮生活：4 森林・林業以外の活動：3 森林・林業に関する活動：1
- ・ 山の学校に入学して良かったか  
とても良かった：3 まあ良かった：3 まったく良くなかった：1

## 5 入学者数の推移



## Ⅲ 課題と論点

# 1 課題

## (1) 不登校・ひきこもりの増加

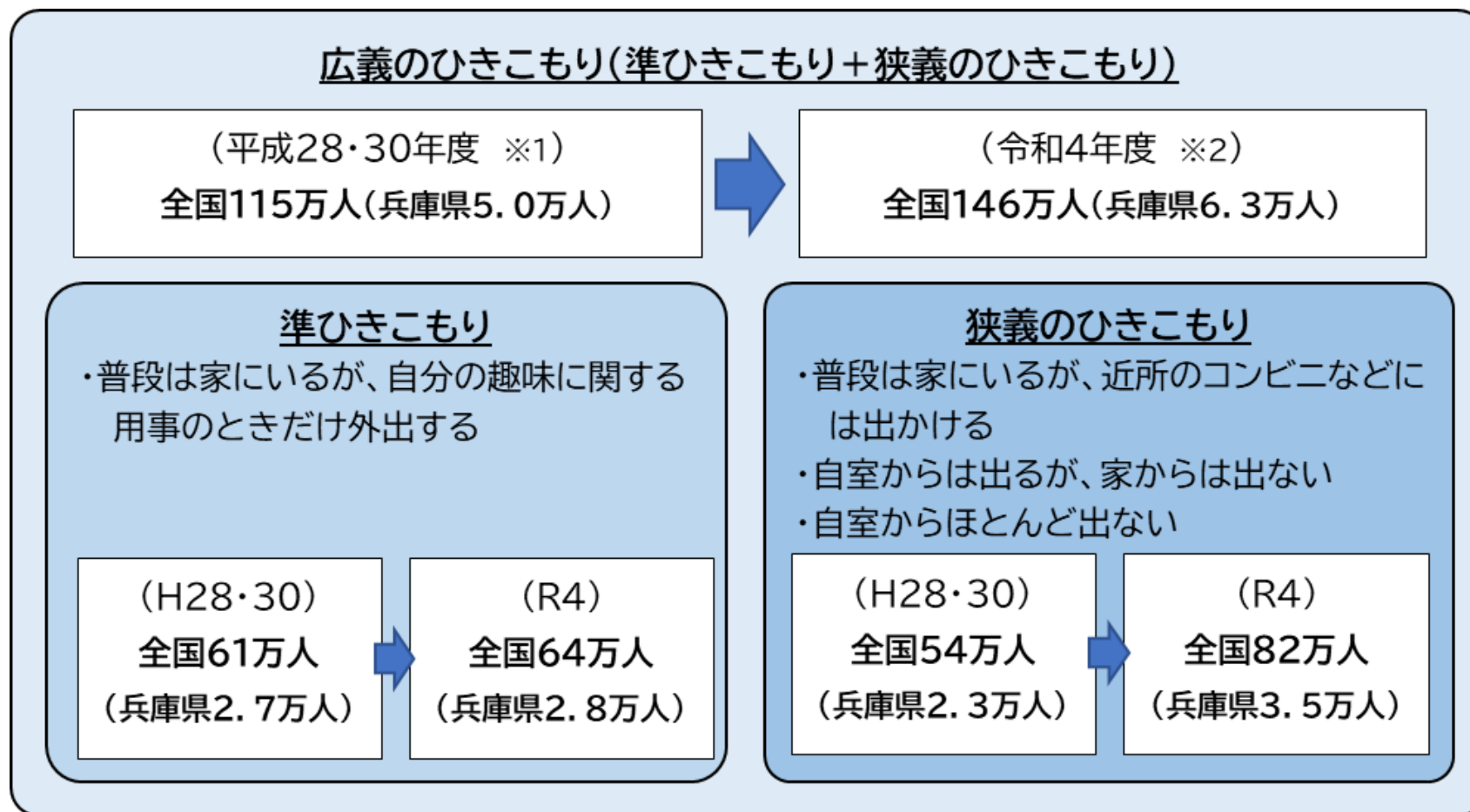
### ア 県内不登校児童生徒数の推移

区 分		H30	R1	R2	R3	R4	R5
公立 小学校	兵庫県人数	1,873	2,337	2,829	3,643	4,938	5,912
	兵庫県割合	0.65	0.82	1.01	1.32	1.80	2.19
	全国割合	0.70	0.84	1.01	1.32	1.72	2.16
公立 中学校	兵庫県人数	5,736	6,084	6,424	7,679	9,239	9,937
	兵庫県割合	4.30	4.62	4.91	5.82	7.06	7.64
	全国割合	3.81	4.12	4.30	5.26	6.27	7.04
公立 高等学校	兵庫県人数	1,246	1,160	935	1,147	1,400	1,288
	兵庫県割合	1.19	1.14	0.94	1.20	1.50	1.40
	全国割合	1.81	1.76	1.55	1.90	2.29	2.63
公立合計 小・中・高	兵庫県人数	8,855	9,581	10,188	12,469	15,577	17,137
	兵庫県割合	1.69	1.85	1.99	2.47	3.13	3.49
	全国割合	1.72	1.87	1.98	2.48	3.04	3.57

※文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」より

※「割合」は、全児童生徒数に占める不登校児童生徒数の割合

## イ 「ひきこもり状態にある人」の推移



※1 平成28年度「若者の生活に関する調査」(内閣府)：15～39歳

平成30年度「生活状況に関する調査」(内閣府)：40～64歳

※2 令和4年度「こども・若者の意識と生活に関する調査」(内閣府)：15～64歳

## (2) 時代の変化

### ア 不登校やひきこもりの学びの場や居場所の多様化

- ・不登校等の課題に対応した学び・交流の場を提供する施設として、学びの多様化学校や通信制高校、フリースクール等、民間も含め、柔軟で多様な学びの場や居場所が増加
- ・自治体を中心にひきこもり支援も進展、支援拠点の充実に伴い、居場所も増加

### イ コロナ禍（概ねR2～R4の間）の影響

- ・オンライン学習を含む教育環境のデジタル化が普及
- ・「学校へ行かない」ことへの心理負担の低下

### 【通信制高等学校の学校数・生徒数の推移】

	学 校 数 (校)				生 徒 数 (人)			
	全日 定時	通 信			全日 定時	通 信		
		公立	私立	計		公立	私立	計
S45	4,798	67	15	82	4,231,542	95,848	52,900	148,748
S60	5,453	68	18	86	5,177,681	86,282	46,362	132,644
H7	5,501	68	25	93	4,724,945	97,330	56,653	153,983
H17	5,418	76	99	175	3,605,242	93,770	89,748	183,518
H27	4,939	77	160	237	3,319,114	66,702	113,691	180,393
R2	4,874	78	179	257	3,092,064	55,427	151,521	206,948
R5	4,791	78	211	289	2,918,501	57,437	207,537	264,974

※文部科学省「学校基本調査」

### (3) ニーズの変化

#### 修了生・保護者・関係者の声

- ・対象年齢の緩和（引き下げ（小・中学生）、引き上げ（24歳以上））
- ・女子の入学【山の学校】
- ・県外在住者の入学
- ・高卒資格の取得（在籍期間の延長） → 参考1
- ・通学コースの設定
- ・カリキュラムの改善
- ・月納金負担の免除・減免
- ・通学バスの運行 → 参考2
- ・寮の改修（4人部屋の2人部屋・個人部屋化、身体障害・性的マイノリティ等への対応 等） → 参考3
- ・認知の向上（こうした施設があることを知らなかったとの意見多数） → 参考4



## 参考１ 進路の変化

### 【神出学園】

	就 職	進 学		その他	合 計
			通信制高校		
H5～H29	76(11.1%)	488(71.3%)	212(30.9%)	120(17.6%)	684(100%)
H30～R6	23(15.5%)	103(69.6%)	93(62.8%)	22(14.9%)	148(100%)
合 計	99(11.9%)	591(71.0%)	305(36.6%)	142(17.1%)	832(100%)

### 【山の学校】

	就 職		進 学	その他	合 計
		森林造園関係			
H5～H29	195(57.5%)	96(28.3%)	111(32.8%)	33( 9.7%)	339(100%)
H30～R6	9(20.5%)	3( 6.8%)	30(68.2%)	5(11.3%)	44(100%)
合 計	204(53.3%)	99(25.8%)	141(36.8%)	38( 9.9%)	383(100%)

### ※傾向・課題

- ・山の学校でも進学の方に変化（通信制高校在籍者も増加）
- ・神出学園は２年制、山の学校は１年制のため、中学校卒業後入学しても、在籍中に高卒資格を取得できない

## 参考２ 施設へのアクセス

アクセス不便な立地のため、通学に相当の時間を要する。

### 【神出学園】

- ・ アクセス：JR明石駅 → バス（40分） → 徒歩（15分）  
神戸市営地下鉄西神中央駅 → バス（25分） → 徒歩（15分）
- ・ 登下校所要時間：西宮市在住者 2時間30分程度  
たつの市在住者 2時間30分～3時間程度
- ・ 保護者の負担：自宅から最寄り駅までの送迎（必要な場合）  
入学時の布団の持込み（車がなければ宅配便を利用）  
長期休み（夏・冬・春）前の私物の持帰り

### 【山の学校】

- ・ アクセス：JR姫路駅 → バス（60分 → 乗換後10分） → 徒歩（15分）  
JR播磨新宮駅 → バス（30分 → 乗換後10分） → 徒歩（15分）
- ・ 登下校所要時間：姫路市在住者 1時間30分程度  
加古川市在住者 2時間程度
- ・ 保護者の負担：自宅から最寄り駅までの送迎（必要な場合）  
入学時の布団の持込み（車がなければ宅配便を利用）

## 参考3 寮の現状

寮での共同生活は、不登校・ひきこもり等の青少年にとって簡単なものではないが、民間運営の「全寮制フリースクール」は全国に複数設置されている（後述）

### 【全寮制フリースクールのメリット】

- ・ 24時間のサポート体制とすることにより、生活面のサポートが充実
- ・ スタッフや仲間との交流による、社会性の涵養
- ・ 掃除や洗濯を自分で行うことによる、生活基礎力・自立心の育成
- ・ 規則正しい生活を送ることによる、昼夜逆転状態等からの生活改善
- ・ 親等の家族と距離を置くことによる、家族関係の改善

### 【全寮制フリースクールのデメリット】

- ・ 通学制に比べて費用が高い
- ・ 家族と距離を置くことや共同生活への子どもの心理的負担

寮は、高度経済成長期を中心に、人材確保等を目的に企業・大学等で多数設置されてきた。建物の老朽化や住居に対する価値観等から入居者は減少の一途をたどるが、近年、賃料の安さ・通勤（通学）至便なこと（コスパ・タイプの良さ）に加え、住人同士の交流や自活スキル向上等の利点から再注目されつつある。

## 参考4 現状の周知・広報の状況

### 【現状】

- ・ 各種媒体の活用による情報発信
  - 共通：チラシ制作、ホームページ
  - 神出学園：Instagram・Facebook
  - 山の学校：ブログ・You Tube・Instagram
- ・ 県内学校への周知、校長会・教頭会・教員研修会等での周知、アウトリーチ事業（神出学園）の実施
- ・ 県内関係機関（教育、福祉、医療関係等）への訪問による周知活動
- ・ 1日自由体験（神出学園）、チャレンジ体験・体験入学会・トライやる（山の学校）の実施

### 【課題】

- ・ 学校や保護者としては、極力高校へ進学させたい傾向
- ・ 一般的な認知・理解が不足
- ・ ネガティブなイメージをもたれがち

## (4) 厳しい財政状況

授業料に相当する費用は徴収しておらず、収入のほとんどは指定管理料

神出学園：給食費、寮運営経費（光熱水費）、体験活動積立費及び教材費は、利用者から実費を徴収

山の学校：食費、教材費は、利用者から実費を徴収

### ア 令和6年度収支状況

[単位：千円]

科 目		神出学園	山の学校	備 考
収 入	指定管理料等	102,860	39,691	
	合 計	102,860	39,691	
支 出	人件費	76,166	31,257	派遣職員諸手当・法定福利費、非常勤嘱託職員人件費 等
	維持管理費	9,850	2,348	光熱水費、通信費、燃料費、機器借上料、建物維持費 等
	運営費	9,070	3,102	プログラム実施経費、広報・募集経費、会議開催経費 等
	施設修繕費	7,774	2,984	
	合 計	102,860	39,691	

※上記以外の経費

- ① 寮運営経費・教材費：利用者から実費徴収（別会計(R6神出学園8,451千円、山の学校2,246千円)）
- ② 県・県教委派遣職員人件費（給料・期末手当等）：県・県教委から支給（神出学園14人、山の学校4人）

## イ 県指定管理料等の変遷（修繕費除く） ※H26～指定管理制度導入

[単位：千円]

	H26	H27	H28	H29	H30	R1
神出学園	75,778	81,266	83,391	92,066	88,973	85,569
山の学校	30,125	31,937	32,461	30,557	35,607	34,997

R2	R3	R4	R5	R6
81,693	80,434	83,486	85,519	95,086
33,224	34,566	32,232	31,912	36,707

※施設維持運営費として県が支出した委託料（指定管理料等）、補助金（事業費補助金等）の合算

## 参考5 他県等の状況

- ・他県等では、神出学園・山の学校に類似した公立の施設の設置・運営事例はない
  - ⇒ 民間運営の全寮制フリースクールは、全国に複数設置されている
  - ※登録・認可制ではないため全貌を把握できないが、少なくとも12施設を確認（うち8施設がこの10年以内に設置）
- ・フリースクールへの運営助成・利用者支援は、10都道府県が実施

### 【参考】全国照会の概要

実施期間：令和7年5月1日～16日

照会対象：全都道府県（各都道府県の青少年健全育成・不登校対策・ひきこもり対策所管課に照会）

照会項目：①神出学園・山の学校に類似した施設の設置・運営例  
②宿泊を通じた生活改善等の支援を目的とした事業の実施例

照会結果：全都道府県119課室から回答

## 2 論点

- (1) ひきこもり・不登校が増加する中での、通信制高校・フリースクールの増加、学びの多様化学校の設置、オンライン学習の進展等の時代の変化を受け、施設の必要性・役割をどう考えるか
- (2) (1) のような時代の変化を踏まえ、対象者の条件・在籍期間・支援内容等に変えるべきところはないか
- (3) 民間活力を活用できないか（移管、指定管理者の公募、一部業務委託等）
- (4) 財政的な持続可能性を確保するため、歳出削減・歳入確保できるものはないか